

■ 幹事報告

11月22日の例会について

当クラブ例会へ、フィリピンセブ島のフォートサンペドロ RC より 11 名メーキャップに来会されます。英語が堪能な方、そうでない方も是非、積極的に国際交流を宜しく願います。



■ 委員会報告

親睦活動委員会 忘年家族例会開催のご案内

釜忘年家族例会のご案内です。12月17日(土) 17:30 受付 18:00 点鐘、東天紅にて開催します。アトラクションは千城ウィンドシンフォニカによる演奏と大抽選会です。メール・郵便にてご案内を行っています。次週より受付を開始しますので、宜しく願います。

WRG ゴルフ同好会

第63回 WRG (遠藤年度第2戦) 大会を11月17日(木) レイクウッド総成カントリークラブにて開催します。選手の皆さんは9時までに受付を完了してください。尚、アトラクションを配布しましたが、組み合わせに変更があります。宜しく願います。



■ ゲストスピーカー 地区ロータリー財団委員会 財団資金・推進管理委員会 委員長 水野晋治様

地区ロータリー財団委員会 財団資金・推進管理委員会水野晋治と申します。よろしく願います。

今月11月はロータリー財団月間です。本日は月間に因んで「ロータリー財団と寄付」というテーマで財団へ寄付の現状などについて少しお話をさせていただきます。

ロータリー財団の使命は世界で健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済する事を通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにする事です。

ロータリー財団は、クラブや地区による地元での社会奉仕プロジェクトや、海外での国際奉仕プロジェクトといったロータリーの奉仕活動を資金面で支えています。また、全世界規模で行われているポリオ撲滅活動にも多額の資金を授与しています。

財団の資金は、ロータリアンをはじめとする支援者からの寄付によって支えられています。

アーチ・クラフは、ロータリーの恒久的な基金というビジョンの実現に尽力したことから、「財団の父」と呼ばれています。

1917年のアトランタ大会で、クラフは次のように述べています。「諸々の社会奉仕を今まで通りに実行していくには、慈善・教育・そのほかの社会奉仕の分野において世界でよいことをするための基金を作るのが、極めて適切であると思われる」後にこのビジョンを土台として誕生したのがロータリー財団です。彼の「世界でよいことをする」という言葉が、財団の標語となりました。

同じく1917年、アトランタ大会でのクラフの提案に答えるかたちで、米国ミズーリ州のカンザスシティ・ロータリークラブから、最初の寄付26ドル50セントが基金に寄せられました。しかし、その後ほぼ10年間、この基金が大々的に知られることはなく、寄せられた寄付もごくわずかでした。

1927年、ロータリーのリーダーは基金への関心を高め、その翌年、ロータリー大会の代議員によって、この基金はロータリー財団という名称に正式に変更されました。

1928年アーチ・クラフは以下のような言葉を残しています。

「この基金を人びとに知られぬままにさせてはならないと、私たちは強く感じています。

一人ひとり、すべてのロータリアンがこのことを十分かつ正確に理解できれば、たとえ合計額が極めて少ないものであったとしても、この基金を支えようと皆が思うようになるでしょう」

次にロータリー財団への寄付についてご説明します。ロータリー財団への寄付は大きく分けると年次基金、ポリオプラス、恒久基金、その他基金に分かれております。中でも年次基金には毎年ご寄付をいただく必要がございます。年次基金寄付は、ロータリー財団への寄付の基盤です。地区補助金プログラムの主な資金源等になります。当地区では今年度会員1人当たり150ドルを目標に寄付をお願いしております。

年次基金寄付は3年後にシェアシステムにより地区財団活動資金(DDF)と国際財団活動資金(WF)に50%ずつ配分されます。

DDFは地区の裁量の下に「地区補助金」、「グローバル補助金」、「ポリオプラス」や「ロータリー平和センター」への寄贈等に全額使われます。

年次基金が今日の財団プログラムを支える一方、恒久基金は明日の財団プログラムを確かなものとするために、元金には手をつけず投資収益のみを使います。

これにより、世代を超えて大勢の人々を支援し、希望を分かち合うことができるのです。

ポリオ(急性灰白髄炎(きゅうせいはいはくすいえん)いわゆる小児麻痺)は、身体麻痺の後遺症をもたらす、時として命さえも奪う伝染病です。この基金は、ポリオを世界から撲滅するという目標を達成するために利用されます。治療法のないポリオに対する最善の対策は予防です。ロータリアンはこれまで、122カ国、20億人以上の子どもたちへのポリオ予防接種を支援してきました。わずか60円ほどのワクチンで、一人の子どもを生涯ポリオから守ることができます。ポリオ撲滅のための基金「ポリオプラス」へは毎年1人当たり30ドルの寄付をお願いしています。

ロータリーは、1979年にフィリピンの子どもたちにポリオ予防接種をはじめて以来、パートナー団体とともに懸命に活動を続け、全世界でポリオの発症数を99.9パーセント減らすことに成功しました。今、あと少しでポリオを撲滅できるところまでできています。しかし、撲滅を完全に成し遂げるには、皆さまからの支援が欠かせません。

日本でもポリオ予防接種に毎年およそ180億円以上の費用が必要と言われていました。

ポリオが根絶されると毎年日本だけで予防接種代が毎年180億円必要なくなります。

逆に1年遅ければ180億円がまた必要です。

次にシェアシステムによる地区財団活動資金の流れを簡単にご紹介します。

3年前の年次基金寄付総額は266,681.76ドルでした。

㊦ 266,681.76ドル × 50% = 133,340ドル

㊧ 前年度の恒久基金の収益の50% = 27,137ドル

㊨ 前年度の繰越金 57,155ドル ㊦~㊨の合計が地区財団活動資金で217,632ドルとなります。そこから地区補助金へ80,238ドル、グローバル補助金へ65,000ドル、ポリオプラス、ロータリー平和センターへ25,000ずつ、予備費として22,394ドル配分しました。

次にこの地区財団活動資金を使った事業、(今年度の)地区補助金の申請状況について少しご紹介致します。地区補助金の申請数は年々増加傾向にあり、今年度は39件でした。(社会奉仕プロジェクト32件、国際奉仕プロジェクト7件)

この地区補助金の原資は先ほどもご説明しましたシェアシステムにより地区に戻った地区財団活動資金より拠出してあります。

